

株式会社八木熊  
 http://www.yagikuma.co.jp/  
 http://greensenses.jp/ (green senses サイト)  
 所在地: 福井市照手2-6-16  
 電話番号: 0776-22-3300  
 代表者: 八木 信二郎 氏  
 資本金: 2,538万4,500円  
 従業員数: 100名  
 事業内容: 繊維用糊材・油剤・関連商品等販売、繊維・化成  
 品等販売、合成樹脂原料・接着剤等販売、住設建材・  
 資材等販売、自社ブランド製品製造・販売など



販用のカードやパンフレット。シリーズ内でも商品ごとにデザイナーを変え、商品イメージに合った展開をしています。



グリーンセンスシリーズ「grart」(上)と「AccentGreen」(下)。

「ひとつくり」

## アカデミーでの学びを 新規事業推進に

株式会社八木熊

1895年に創業し、県内有数の100年企業として業務展開する株式会社八木熊。営業・開発・生産部門が一体となり「商社×メーカーの融合体企業」の業態を推し進める中、同社は「新たな成長の礎に」と自社商品シリーズ『グリーンセンス』を立ち上げました。プロジェクト推進に当たり『福井デザインアカデミー事業』を生かしたという、同社C/S本部グリーンセンス室の中谷元保氏に開発のエピソードを伺いました。

### 国内製造業の状況受け 個人向け市場に注目

グリーンセンス室の前身である事業推進室ができたのは約5年前。当時のメンバーは中谷氏を含めて2人で、八木信二郎社長からは「当社の既存ビジネスの枠にとらわれず、何をやってもらいたい」という指示があったといいます。「社長の言葉を受けて農業や漁業なども含めて様々なジャンルをリサーチし、15個くらいのテーマをピックアップしました」と振り返ります。日本の製造業が生産拠点の海外移転を進めている中で新規事業展開に当たって個人市場、とりわけ壁面緑化や屋上緑化の分野が有望株として浮上りました。「自然環境配慮型商品ということで新規参入するメーカーは多かったのですが、当時は必ずしも活発な市場ではなかったですね。というのも、機能的重視でデザインが後回しになっているような商品が多かったからなんです」。

### 販売ノウハウ不足で 売れ行き不調の時期も

そんな折、中谷氏はたまたまフランスのバーティカルガーデン(垂直庭園)の存在を知ります。単に植物を並べるだけの壁面緑化ではなく、アーティスティックな質感を伴った壁面装飾。「会社に掛けたら現地に出張させてもらったところ圧倒されました。このすばらしさを日本の市場にも取り入れたいと強く思いました」。

とはいえ、生の植物を使うと、こまめな手入れが欠かせません。そこで「純粹に緑を室内で楽しんでもらう商品」というコンセプトを据え、ブリザーブドフラワーの応用を思い立ちました。

「ヨーロッパアンフラワーデザインの第一人者である久保数政さんに飛び込みで電話をして『バーティカルガーデンの美しさを日本にも紹介したい』とアプローチしました。我ながら無謀なことをしたものだと思いますが、二つ返事で『面白そう』だと言っていただけでした」

強力なブレイクを得て、初

### アカデミー受講きっかけに 県内の専門家と商品開発も

もやもやとした状態が続く中、中谷氏がたまたま見つけた1枚のチラシ。ふくい産業支援センターデザイン振興部が行う『福井デザインアカデミー』の募集案内でした。長年総務畑を歩み、新卒採用などの業務を通じてデザインへの関心が高まっていたという中谷氏は、約4カ月間の講座でマーケティングやコピーライティングなどの手法を体系的に学ぶことができたといいます。

「今でも記憶に残っているのが、講師の方の『デザイナーと会話ができるようになりなさい』という言葉ですね。発注者としてこの姿勢を意識することで、デザイナーとの距離が縮まったと感じています」。アカデミーをきっかけに県内在住のデザイナーとも知り合うことができ、新シリーズ開発にも結び付きました。現在販売中の商品価格帯は「百貨店品質を目指している」1万円〜2万円が中心で、都内の有力百貨店や大手雑貨店との直接取引も増えつつあり



中谷 元保 氏



デザインアカデミーでの様子。グループワークやプレゼンテーションなど実践的な内容の講義です。

ます。既存の枠にとらわれずに始まったプロジェクトというものの、グリーンを植栽するためのベースやパッケージの設計・製造では、同社のプラスチック製品メーカーとしてノウハウがふんだんに投入されています。

「これまでBtoB中心だったため、製品開発ではデザインより機能性・強度・コストなどが重視される傾向にありました。しかしアカデミーに通ったことで、当社のような業態でもデザイン力を高めることが重要だと実感しました。いずれグリーンセンス室のスタッフ全員にアカデミーを受講させたいです」と力を込めます。



持ち帰り中などに逆さまになってもケース内で商品が曇れないよう、梱包にも工夫。資材メーカーならではの心配りがバイヤーにも好印象とのこと。